

# テキスタイル物流 SDGs①

システムによる最新自動化倉庫で CO<sup>2</sup> を 76% 削減

1

## CO<sup>2</sup> 排出量・エネルギー消費量 76% 削減

同規模の非自動化物流倉庫と比較して、  
エネルギー消費量：1,693,283kwh→410,236kwh  
CO<sub>2</sub> 排出量：761ト/年→183ト/年

2

## 大規模自動ピッキングシステム導入

協栄産業株式会社の Geek Plus 製物流ロボット「EVE」  
による自動棚ピッキングシステム導入

3

## チルトトレイン式自動ソーター機導入

椿本チエイン社製「つばきリニソート S-E」による自動ア  
ソートを実現  
騒音の低減・繊維製品分配特化仕様機を導入

4

## 天高 3.5m で空調効果を最大化

自動化システムのサイズ・人の作業の効率化から倉庫の天  
井高を 3.5m に設定  
定温・定湿倉庫として空調効率を最大化

5

## 照明は LED & 人感センサー化

照明はエネルギー消費効率の高い LED を使用  
人感センサーで必要な場所と時間のみの点灯コントロール  
エリア別照明配置計画を実施



# テキスタイル物流 SDGs②

再生エネルギー・リサイクル・女性活躍視点を踏まえた SDGs 施策

## 6 太陽光発電の導入

6 太陽光発電設備を 2023 年に導入  
倉庫内消費電力の 46%を賄う

## 7 使用済み段ボールの全自動圧縮減容機導入

7 使用済み段ボールを効率的にリサイクルするため「ORW  
AK 社製全自動圧縮減容機」を導入  
1年間で約 45t の段ボールをリサイクル

## 8 延べ床面積 15000m<sup>2</sup> にスタッフ 40 名

8 自動化システムの導入で従業員数を抑制  
照明・空調をスタッフの作業スペースに効率的に配置

## 9 セミオートデバンニングマシン導入

9 女性の力でも荷下ろしが可能なセミオートデバンニングマ  
シンを導入

## 10 敷地内緑化の推進

10 敷地周囲にグリーンスペースを計画配備



# 衣服ロスを低減させる

繊維ビジネスの「シーズン販売終了→回収→リメイク→再販売」を担う静脈物流

## 返却品整理

11

数百を超える販売・営業拠点から返却される製品を再販可能な状態に整理し SKU 単位の製品として荷主様にお届け  
多様な返却状況に応じたメニューでデッドストック排除へ

## 何度でも清潔にリメイク

12

検品・クリーニング・しみ抜き・プレス・各種タグ付け・  
修繕・再梱包で次の販売機会に向けたリメイクを実施

## 廃棄量の削減

13

生産数コントロール・ユニフォームの再利用  
により廃棄量も削減

## クリーニング溶剤による土壌汚染回避

14

ドライクリーニングは全て石油系溶剤を使用  
石油系溶剤はすべて洗濯機内で管理  
洗いに使用した溶剤は蒸留され新液になり次のクリーニングに再利用

## 廃棄品のリサイクル

15

使用終了した製品はサーマルリサイクル・マテリアルリサイクル・ケミカルリサイクル等を実施

リサイクルメニュー

## ①ケミカルリサイクル

焼却処理と比較して CO<sup>2</sup> を 100%削減

廃棄衣類繊維処理率 100%

◇ファスナー・ボタンなど附属品も同時処理  
全て原料化を行いリサイクルされる

コークス・発電用ガス・炭化水素油（石油由来原料）にリサイクル

## ②マテリアルリサイクル

焼却処理と比較して CO<sup>2</sup> を 30%削減

廃棄衣類繊維処理率 80～90%

◇生地部分はマテリアルリサイクル  
◇ファスナー・ボタンなどは不燃物廃棄へ  
リサイクルボード・リサイクルペーパーなど

## ③発電利用サーマルリサイクル

石炭燃料利用に比較べて CO<sup>2</sup> を 15～20%削減

廃棄衣類繊維処理率 100%

発電量：

廃棄衣類繊維 1 kg

=60W 電球が 40 分点灯可能な電力